

土庄町食品ロス実態調査報告書

(1) 実施概要

実施日	令和 7 年 1 月 14 日（火） 午前 10 時 00 から 午後 3 時 40 分 まで
作業場所	有限会社 小豆島 現場倉庫 香川県小豆郡土庄町淵崎甲 447-32
作業時間	9：00～16：00（昼休憩 1 時間、準備片づけ含む。）
作業体制	委託業者 6 名
調査試料	<ul style="list-style-type: none">・調査対象地域： 都市部（小豆島が勤務地となった島外者が多く在住する集合住宅地。以下「集合住宅地」とする。）、都市部（戸建て住宅地）、農村部、漁村部、農村漁村複合部・試料重量 5 地域の合計の試料約 603kg（1 地域当たり約 120kg）から、食品廃棄物約 276.5kg を抽出。・サンプルの収集方法 軽ダンプ車 5 台（1 地域当たり 1 台）で、町内自治会ステーションから収集。

(2) 調査実施計画

1) 処理計画・目標等

土庄町は「土庄町一般廃棄物処理基本計画（平成 29 年 10 月策定）」に基づき、ごみの減量・再資源化等に取り組んでいます。

食品ロス対策の推進には、平成 9 年度から実施している土庄町ごみ処理用機器設置補助金事業の他に次のように啓発を実施しております。

令和元年度 食品ロス削減に対する意識向上を図ったリーフレットの作成・町内小学生へ配布

令和 2 年度 町内小学生や各地域老人会・環境団体を対象とした環境学習会の実施、町広報誌に町内全戸に食品ロス削減リーフレットの配布、横断幕・旗・のぼりなどの啓発物品の作成など

令和 4 年度 町内小学生を対象とした環境学習会の実施、フードドライブ

令和 5 年度 町内小学生を対象とした環境学習会の実施、フードドライブ

令和 6 年度 町内小学生及び東京農業大学生を対象とした環境学習会の実施、フードドライブ

図表 1 土庄町一般廃棄物処理基本計画の目標

区分		目標項目	基準 (基準年度： 平成 27 年度)	目標 (目標年度：令和 13 年度)
減量	家庭系	1 人 1 日当たり の排出量	1,074.4g	864.5g (平成 27 年度比で 10%の削減)
	事業系	排出量	1,151t	1,014t (平成 27 年度比で 10%の削減)
	総排出量	排出量	6,904t	4,617t (平成 27 年度比で 10%の削減)
		1 人 1 日当たり の排出量	1,289.1g	1,155.9g (平成 27 年度比で 10%の削減)
再資源化量		1 人 1 日当たり の排出量	114.2g	116.1g (平成 27 年度比で 10%の削減)
最終処分料		最終処分量	2,236t	1,497t (平成 27 年度比で 10%の削減)

2) 対象とする一般廃棄物

土庄町では、図2のとおり家庭ごみを分別しており、今回実施しました食品ロス実態調査については、「燃やせるごみ」を対象に実施しました。

図2 家庭ごみの出し方の概要（土庄町）

項目	内容
家庭ごみの分別	<ul style="list-style-type: none"> ・燃やせるごみ、燃やせないごみ、缶・びん・ペットボトル・発泡トレイ、古紙類、粗大ごみ、臨時収集
うち、「燃やせるごみ」の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・料理くずなど厨芥類、少量（50cm未満に裁断されたものに限る）の木の枝・板切れなど、天然皮革（合成除く）、毛糸の玉・ぬいぐるみなど繊維くず、手紙・ダイレクトメール類・写真など紙くず、酒パック（内側が白以外の紙パック）・紙コップなど紙製品、洋服・和服・下着・シーツ・タオルなどの布・衣類、ラップ・フィルム状包装などのラベル・ラップ類、卵や豆腐などのパック類、菓子袋・パン袋・冷凍食品の袋などのポリ袋類、カップ麺の容器・デザートなどの容器などのプラスチック製カップ類 ※収集は週2回
ごみ袋の有料化	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみの指定収集袋あり ※指定収集袋の種類 可燃 特大（90L、10枚入り）440円 可燃 大（45L、10枚入り）220円 可燃 中（30L、10枚入り）110円 可燃 小（20L、10枚入り）77円 不燃 大（45L、10枚入り）440円 不燃 中（30L、10枚入り）220円 不燃 小（20L、10枚入り）154円
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・紙 新聞紙・折込広告、段ボール、雑誌（週刊誌・漫画雑誌・書籍）、紙製容器包装（紙箱・紙袋・包装紙）・手提げ袋・紙缶・台紙・紙製トレイ、紙パック（牛乳パック・ジュースパックなど内側が白色のもの） ※収集は月1回

3) 調査対象地域・採取方法等の検討

調査対象地域については、地域の特性を踏まえ、①都市部（集合住宅地）、②都市部（戸建て住宅地）、③農村部、④漁村部、⑤農村漁村複合部の5地域としました。

各地域の特性としては、①都市部（戸建て住宅地）は町中心部に近い住宅、②都市部（小豆島が勤務地となった島外者が多く在住する集合住宅）は約42世帯が入居するマンション・アパートが立ち並ぶ地域、③農村部は町中心部から約5km程度離れた、近隣に田畑が広がる農地と住宅が共存する地域、④漁村部は町中心部から約5km程度離れた、「島鯉」という小豆島ブランドを立ち上げるなど漁業振興が盛んな地域、⑤は町中心部から約7km程度離れた、杏子やレモンの栽培を行う畑が多く、海苔養殖を中心とした漁業活動も盛んな地域です。

また、試料の採取方法については、調査日当日（令和7年1月14日（火））、調査対象地域の自治会ステーションに出された「燃やせるごみ」を、軽ダンプ車5台（1地域につき1台）で収集し、調査場所である有限会社小豆島に搬入しました。

(3) 調査結果の概要

1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料については(図表3)、5地域の合計が115袋で603kg、1袋当たりの平均重量は約5.2kgでした。地域別では①都市部(集合住宅地)が23袋で102.5kg、②都市部(戸建て住宅地)が23袋で134.5kg、③農村部が25袋で125kg、④漁村部が21袋で135kg、⑤農村漁村複合部が23袋で106kgでした。

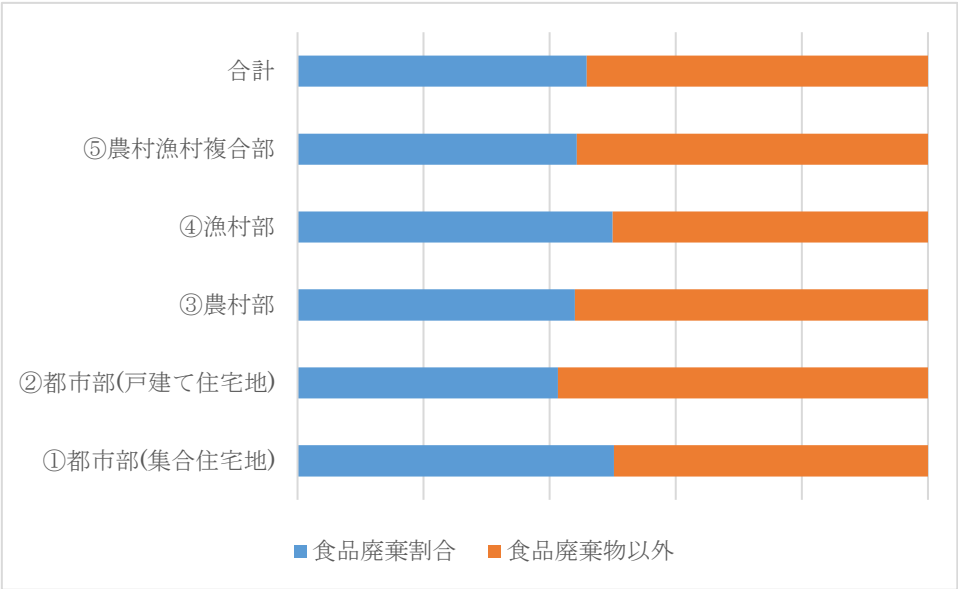
図表3 調査対象とした試料概要(土庄町)

	袋数 (個)	重量 (kg)	袋当たり重量 (kg)
①都市部(集合住宅地)	23	102.5	4.5
②都市部(戸建て住宅地)	23	134.5	5.8
③農村部	25	125	5.0
④漁村部	21	135	6.4
⑤農村漁村複合部	23	106	4.6
合計	115	603	5.2

※合成は、5地域の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合については（図表 4）、5 地域の合計では 45.9%地域別に見ると①都市部（集合住宅地）が最も高く 50.2%、続いて④漁村部が 50.0%、⑤農村漁村複合部が 44.3%、③農村部が 44.0%、②都市部（戸建て住宅地）が 41.3%の順番となっています。

図表 4 試料中の食品廃棄物の割合（土庄町）



	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄割合 C(B/A)	食品廃棄物以外 D(=1－C)
①都市部 (集合住宅地)	102.5kg	51.5kg	50.2%	49.8%
②都市部 (戸建て住宅地)	134.5kg	55.5kg	41.3%	58.7%
③農村部	125kg	55kg	44.0%	56.0%
④漁村部	135kg	67.5kg	50.0%	50.0%
⑤農村漁村複合部	106kg	47kg	44.3%	55.7%
合計	603kg	276.5kg	45.9%	54.1%

※合計は、5 地域の調査結果を足して算出したもの

2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

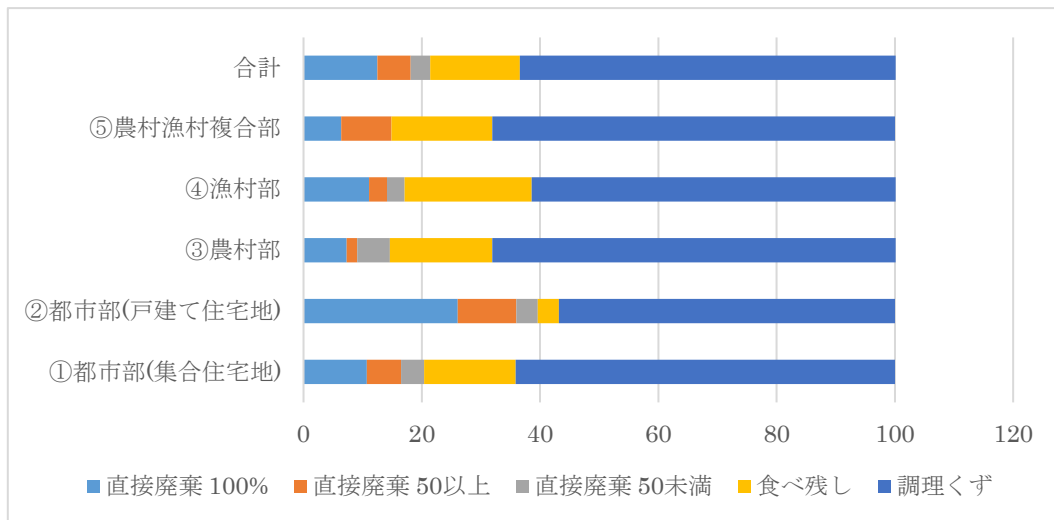
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄及び食べ残しを食品ロスとします。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表5）、5地域の合計では36.6%、地域別に見ると、②都市部（戸建て住宅地）が43.2%、続いて④漁村部が38.6%、①都市部（集合住宅地）が35.9%、③農村部と⑤農村漁村複合部が31.9%の順番となっています。

直接廃棄に着目すると、5地域の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち12.5%を占めており、②都市部（戸建て住宅地）が26.1%と高く、続いて④漁村部が11.1%、①都市部（集合住宅地）が10.7%、③農村部が7.3%、⑤農村漁村複合部が6.4%となっています。

同様に、食べ残しに着目すると、5地域の合計は15.2%、④漁村部が21.5%と高く、③農村部が17.3%、⑤農村漁村複合部が17.0%、①都市部（集合住宅地）が15.5%、②都市部（戸建て住宅地）が3.6%の順番となっています。

図表5 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（土庄町）



令和6年度食品ロス実態調査報告書

	食品ロス 割合	うち直接廃棄			うち食べ 残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
①都市部 (集合住宅地)	35.9%	10.7%	5.8%	3.9%	15.5%
②都市部 (戸建て住宅地)	43.2%	26.1%	9.9%	3.6%	3.6%
③農村部	31.9%	7.3%	1.8%	5.5%	17.3%
④漁村部	38.6%	11.1%	3.0%	3.0%	21.5%
⑤農村漁村複合部	31.9%	6.4%	8.5%	0.0%	17.0%
合計	36.6%	12.5%	5.6%	3.3%	15.2%

※合計は、5地域の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベース。

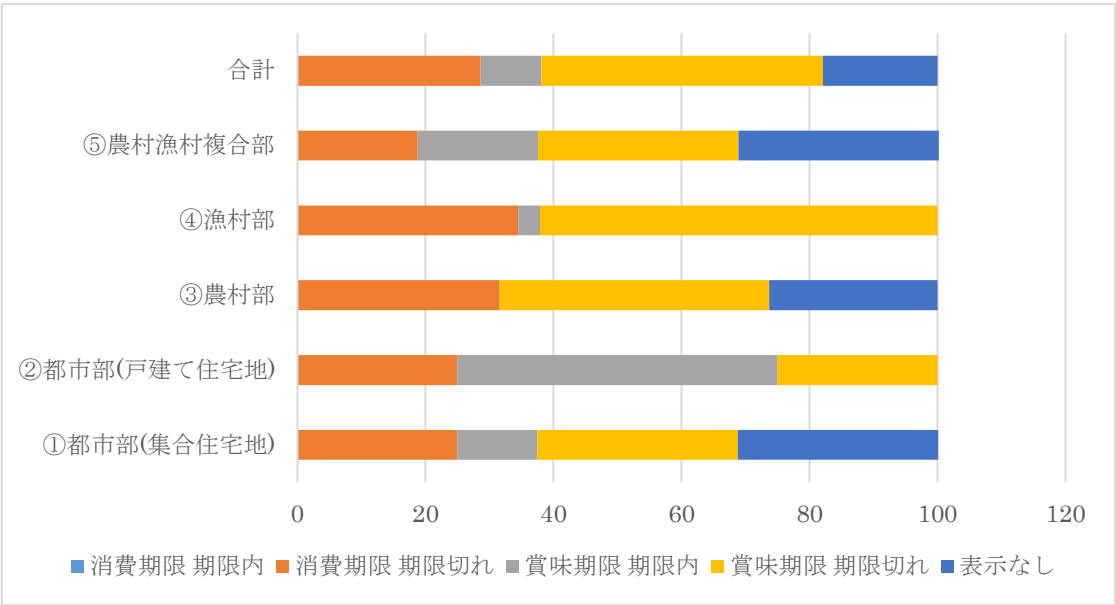
3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表6）、5地域の合計では「賞味期限」が最も多く53.5%（期限内9.5%、期限切れ44.0%）であり、消費期限の表示があったものは28.6%（期限内0.0%、期限切れ28.6%）、表示なしは17.9%となっています。

消費期限に着目すると、消費期限内という表示が確認できたものはなく、ほとんどが消費期限切れのものでした。

地域別に見ると、④漁村部の「賞味期限・期限切れ」の割合が62.1%と特に高くなっています。

図表6 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（土庄町）

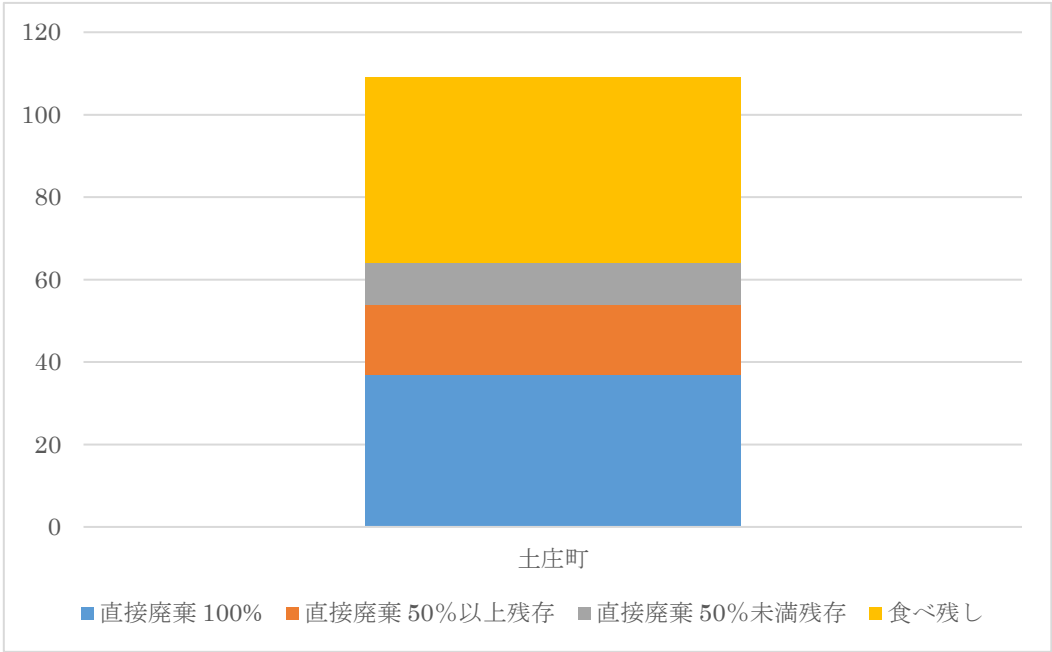


	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
①都市部 (集合住宅地)	0.0%	25.0%	12.5%	31.3%	31.3%
②都市部 (戸建て住宅地)	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
③農村部	0.0%	31.6%	0.0%	42.1%	26.3%
④漁村部	0.0%	34.5%	3.4%	62.1%	0.0%
⑤農村漁村複合部	0.0%	18.8%	18.8%	31.3%	31.3%
合計	0.0%	28.6%	9.5%	44.0%	17.9%

3) 1 人 1 日あたりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和 5 年度の家庭系可燃ごみ収集量 3,030t、令和 5 年 10 月 1 日現在の推計人口 12,796 人を参考に、1 人 1 日あたりの食品ロス発生量を推計すると 109g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（手付かず、100%）が 37.2g/人・日、食べ残しが 45.3g/人・日と推計されました。

図表 8 1 人 1 日あたりの食品ロス発生量（土庄町）



	直接廃棄			食べ残し
	100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
土庄町	37.2g	16.7g	9.8g	45.3g

※数値は小数点第 1 位を四捨五入して表記。

4) 調査実施時の写真



組成調査の様子（ごみ袋計量）



組成調査の様子（分別作業）



組成調査の様子（分別作業）



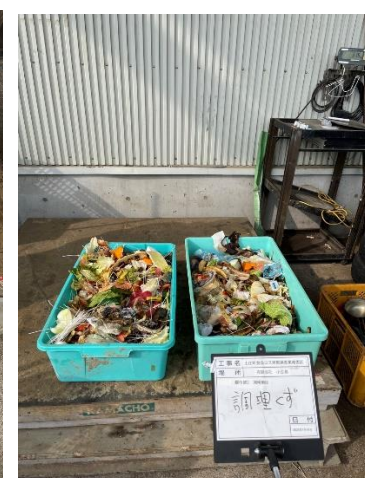
令和6年度食品ロス実態調査報告書



食べ残し (50%以上)



食べ残し (50%以下)



調理くず

令和6年度食品ロス実態調査報告書



直接廃棄



消費期限切れ



表示なし

令和6年度食品ロス実態調査報告書



賞味期限内



賞味期限切れ